浜嶋です。
こんばんは。

吉田隊長からベンチャー隊の活動の紹介がありました。隊集会の報告をしていただくとスカウトの活動がよくわかりますね。

草むしりは社会に役立つことでとてもいいことです。という話がありました。
それに便乗して、私の草むしり感を伝えたいと思います。

栗ヶ丘会館の草取り作業は３月～１２月まであります。各隊で２ヶ月分を担当していただいています。
３月は、すでに吉田団委員と実施しました。４月も行います。団会議で各隊の希望月をお聞きし、実施してもらいます。これは月に１回です。私たちは、それ以外の週の草むしりをしています。
本音は、スカウトに草むしりをさせる体験は、とても貴重だと思い、各隊にお願いしています。吉田隊長の話をよく考えていただければ、今年は、きちんと各隊がやってくれると期待できそうです。

草むしりを義務感でやるのは、１年間続きません。
栗ヶ丘会館の草むしり作業は、本来、団全体でやることです。皆さんは、余り意識していないと思います。時間の余裕のある団委員が草むしりを分担することで、各隊の指導者の負担を軽減できるだろうと思ってやっています。団に役に立つからです。また、汗を流すことが自分の健康維持に良いと考えています。

草むしりは、その場でやることは簡単です。でも、わざわざ遠いところまで出向いて草むしりをするのは、強い意志が必要です。
市民農園に出向き、苗を植えたり、水をやったり、草むしりをしたりすることは、それが好きで来るべき収穫の喜びがあるから続けることができるのでしょう。生物を育てることは大変であることを良く知っていると思います。収穫だけの体験は、それだけの喜びで、精神を養うことはできないですね。

スカウトに草むしりをさせることは、体験のきっかけづくりです。「きれいになったね」、「気持ちがいいね」、そして「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいですね。それにより、スカウトが進んで「自分から草むしりをする気持ち」になれるようにすることが、隊活動で草むしりをさせる教育的な目標になると思います。
言われたからやるだけでは、趣旨が伝わっていることにはなりません。

私には、子供の頃の体験があります。
小学生の時、一軒家で小さな庭がありました。花が植えてあり、母がよく草むしりをしていました。私は母の真似をしながら、この花がきれいに咲くために雑草を取ってあげようと考えてやっていました。
中学３年の時、名古屋市郊外に転居し、広い畑を持ちました。父が野菜をたくさん育てていました。この草むしりは容易ではありません。夏の朝、黙々と草むしりをしていたら、母が、「鉱ちゃん、もういいよ。暑いから家に入りなさい」と声をかけてくれるのです。
でも、私は毎日草むしりしている母の負担を減らしたいと思い、頑張り続けました。
これは、私に忍耐力を付けさせてくれました。自分の気持ちで草むしりができるようになっていました。

自分の気持ちを強くすることのためには、学校の掃除も積極的にやりました。草むしりもします。小学４年生からゴミはポケットにしまい、後から捨てることに決めました。
社会人ならばできることです。スカウトが大人になるまでには、そういう気持ちになってもらいたいですね。

それのお手伝いをするのが、ボーイスカウトの教育的活動（一部分）だと思います。